

ビルリノベを通じて地域を変える③

“うなぎの寝床”を まちづくり拠点に

「柳川市地域おこし協力隊」
「KATARO base 32 管理人」

阿部昭彦 氏

——柳川市の地域おこし協力隊に参加されたきっかけは何でしょうか？

もともと私は東京で、29年間中高一貫校の国語教師として働いていました。給料もよく社会的地位もある仕事でしたが非常にハードで日々余裕がありませんでした。50歳になったとき、東日本大震災もきっかけとなり、セカンドステージとして違うことにチャレンジしたいという思いが芽生えました。その後、先のことを決めずに退職し、東海道五十三次ウォークを始めました。東海道を歩くと、元あった街道沿いの町並みは皆疲弊しており、食事をするにしてもバイパス沿いの全国チェーンしかないということを経験し、そこで「地方での仕事に取り組みたい」と思い始め、地域おこし隊の制度を知りました。

柳川を選んだ理由は、九州で地域おこし隊の募集を探したところ、年齢制限がなかったのが柳川市だけだったからです。私が担当しているのは、グリーンツーリズムの振興と、商店街の活性化です。そのうち、グリーンツーリズムは教員時代に修学旅行の企画担当として民泊したノウハウを生かせることから、役所では農政課に所属していま

す。契約期間は最長3年と短いので、いろいろなところにアンテナを張り巡らしていました。そこで『福岡DIYリノベWEEK』に参加し、吉原住宅（有）の吉原さんに出会いました。

——昨年『KATARO base 32』を開設されました。もともとは何だったのですか？

2014年10月に伝習館高校の文化部発表会を手伝ったことが、この場所を知るきっかけでした。柳川商店街には年1回のさげもん*シーズンにしか開かないシャッター店舗が多いのですが、間口が狭く奥行きが長い「うなぎの寝床」と呼ばれる構造で奥が居住している住戸兼店舗となっているためになかなか貸せない物件が少なくありません。この建物は、隣接するお茶店の店舗として80年前に建てられた奥行き32m・間口7mの町家で、商店街振興組合がオーナーからイベント会場として借りていました。この魅力的な“うなぎの寝床”をリノベーション（以下リノベ）して商店街の活性化に結びつけたいといろいろ相談する中で、ボランティアでDIYを展開している（株）ハンマーズスタイルの甲木さんが快く協力してくれ、ま

プロフィール

阿部昭彦 氏

横浜生まれの横浜育ち。大学卒業後、東京の私立中高一貫校に29年間勤務。モットーは有言実行。部活動指導では全国大会出場を重ねフランスなど海外遠征を実現。学習指導においても勤務校で過去最高の進学実績を残す。2014年に転職。東海道路踏破で地方の実状を目の当たりにして地域おこし協力隊に応募。2014年7月、柳川市地域おこし協力隊として着任。グリーンツーリズム立ち上げとともに商店街活性化事業にも参画。「福岡DIYリノベWEEK」チームの一員として2015年12月、築80年超の空き店舗をリノベした創業拠点施設「KATARO base 32」を開設。ここを拠点として「KATAROプロジェクト」を現在進行中。



た吉原社長から九州大学大学院で建築を学んでいる前田さんをご紹介いただき、3人の力を合わせてDIYリノベに着手、2015年12月に『KATARO base 32』をオープンすることができました。改修費用は市の商工振興課を通じて国の地方創生の予算をいただきましたが、DIYでコストも抑えました。

柳川は商業地として栄えてきた歴史ある場所です。人や物がつないできた“物語”を、リノベによるまちづくりでつないでいこうと考えました。文化とは人の手でバトンタッチしてつなげてゆくものだと思います。表は変化しますが、裏ではつながっている。その部分を大事にしなくてはなりません。拠点名にも柳川の方で「参加しよう」を意味する「かたろう」をかけています。また店舗内にあった資材、例えば組子の欄間や棚板などはテーブルや格子窓に再利用するなど、廃材にも物語を持たせました。ストーリー性が付けられるDIYリノベは、柳川の魅力を大いに引き出すことができる手法だと実感しています。

——『KATARO base 32』の運営を含めた今後の方向性を教えてください。

柳川はまだ男社会で女性が活躍しにくい町です。そのためか、町の中に若い女性の姿を見ることがあまりありません。多くの女性は車の中において、大通りのスーパーで買い物して自宅に戻ります。ここは誰もが気軽に立ち寄れるスペースにしています。オープンしてからトークイベントやマルシ

ェをくり返し開催していますが、嬉しいことに女性の反応がいいのです。最近では「自分でも小さいお店を出したい」という声もあがるようになりました。

柳川市は人口7万人で毎年1%ずつ減少していて、若い女性は福岡に行ってしまいます。私は女性が楽しみながら活動できる場所を作りたいと思っています。そして、“子育てが楽しい町”にすることが、柳川のまちづくりにプラスになると考えています。子育て中だから我慢しなくてはならないなんてナンセンス、子育ては最大の喜びであり、大切な仕事です。女性には積極的にこの拠点を活用してほしいと思っています。今後は女性の創業を徹底的に応援しながら、キッズルーム完備で女性限定のコワーキングスペースも立ち上げる計画です。

私は柳川の町と人が大好きです。しかし、地域のためというよりも自分が楽しいからここにいつまでもいたいと思います。協力隊の任期終了後はDIYリノベを軸としたまちづくり会社を作り、商店街の空き店舗のサブリース事業に取り組みたいと考えています。グリーンツーリズムについても、農漁業を中心とした体験を提供する民泊受け入れ団体を設立しようと考えています。柳川での活動を通じて、自由な発想と情熱があれば町を変えていける可能性を感じています。画一的な日本のまちづくりに対する新しいアプローチを柳川から発信していきたいです。

※ 毎年2月中旬～4月初に行われるひな祭り



『KATARO base 32』

元の梁を生かして改修



近くの造り酒屋で使われていた酒樽を机に改修



『KATARO base 32』

2015年12月、柳川商店街にオープンした創業支援拠点。利用料金は平日1日（10～18時）3,000円、土日祝日1日4,000円、夜間1日（18～20時）2,000円。現在、日替わりカフェ出店者を募集中。